

1600年の[堺遺産]に出会うまつり

ようこそ、堺まつりへ!!

「堺まつり」は、1600年に及ぶ堺の歴史と、現代まで受け継がれてきた伝統と文化が融合する堺の魅力を発信しようと、1974年にスタートした市内最大のイベントです。

今年のテーマは、『堺・歴史絵巻』。大パレードでは、「古墳期：いにしへの堺」、「中世：自治都市堺」、「近世：国際交流都市堺」、「近代：進取の気風都市堺」、「現代：自治・自由都市堺」を、時代軸に沿って表現していきます。また「市役所前にぎわいゾーン」では、大パレードの出演者とふとん太鼓のコラボレーションが実現。さらに「なんばん市」、「市役所前市民広場」でも、堺の歴史や文化を感じる催しが盛りだくさんです。

<堺の歴史に出会えるポイント>

堺は、中世に貿易都市・自治都市として栄え、さまざまな技術や文化を全国に発信した町。

「もののはじまりみな堺」と言われ、織田信長や豊臣秀吉もその魅力にひかれて、直轄地として治めたほどです。

古墳期

古代に思いをはせる文化遺産

もす こぶんぐん

百舌鳥古墳群



東西・南北とも4kmほどの範囲に、日本最大の前方後円墳として知られる仁徳天皇陵古墳、履中天皇陵古墳、反正天皇陵古墳の百舌鳥三陵を中心に、4世紀後半から5世紀後半に造られた古墳が広がっています。古墳時代は100基もの古墳がありましたが、現在は大小44基に。2010年には、ユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載され、世界遺産登録をめざしています。

古墳期

日本最古の「官道」

たけのうち かいどう

竹内街道



金岡神社と道標

日本最古の「官道」である竹内街道は、堺市大小路を起点に、榎元町、長曾根、野遠、竹内峠を越えて飛鳥までを結んでいました。この街道は、古代より政治・経済・外交の道として重要な役割を担い、今もなお名所旧跡が点在しています。堺まつりの大パレードは、深い歴史が刻まれた竹内街道に繋がる大小路筋シンボルロードを舞台に、歴史絵巻を繰り広げます。

中世

堺に生まれ 戦国大名に愛された茶聖

せんの りきゅう

千利休 (1522~1591)



安土桃山時代に活躍した堺出身の茶人で、現在の茶道の原形を築きました。茶の湯をもって織田信長、豊臣秀吉に仕え、茶頭となってわび茶を大成し、現在へと受け継がれています。堺市内には千利休屋敷跡がある他、かつて利休が参禅した南宗寺には、復元された利休好みの茶室「実相庵」や千家一門の供養塔があります。

近世

伝統の技で 料理人が絶賛する切れ味を。

さかうち はもの

堺打刃物



天正年間に、堺でタバコの葉を刻むタバコ包丁が作られるようになったのが始まり。江戸幕府が「堺極」の刻印を打って専売したため、その名声は全国に広まりました。包丁が作られ始めたのは元禄年間。伝統的な鍛冶、研ぎ、柄付けの分業制で作られる堺打刃物は切れ味がよく、プロの料理人から絶大な支持を得ています。

近代

明治生まれの燈台が 今も堺旧港に!

きゅう さかいとうだい

旧堺燈台



明治10年(1877年)、堺旧港に誕生した高さ12mの六角錘形の燈台は、1世紀にわたって航海の安全を守ってきました。埋め立てが進んだ昭和43年(1968年)に現役を引退し、堺のシンボルとして愛されています。今も堺旧港に残り、現地に現存する日本最古の木造洋式燈台として国指定史跡となっています。

近代

大阪唯一の 路面電車

はんかい でんしゃ

阪堺電車



チンチン電車でおなじみの路面電車「阪堺線」は、今年4月に全線(恵美須町~浜寺駅前)開通100周年を迎えました。恵美須町を出た電車が大和川を越えると、そこはもう堺。沿線には、歴史・文化スポットが点在しています。レトロな車体がまち中を走る姿は、すっかり堺の風物詩。この機会に乗車してみませんか。